

民生環境水道常任委員会行政視察報告書

柳 収 一 郎

○静岡県藤枝市

健康マイレージをはじめとした『“健康・予防 日本一” ふじえだプロジェクト』の取り組みについて

【所 見】

全国的に各自治体の社会保障経費が高騰している中で、藤枝市は人口的にも足利市と同等で、これから最も重要な健康・予防の分野で「日本一元気なまち ふじえだづくり」をスローガンとして施策に取り組んでいるとのことで、大変期待をもって視察に臨んだ。

特に関心をしたのは、特定健康診査受診率が、足利市の場合は30%台であるが、藤枝市は49.6%と高い水準にあったこと。これは静岡県内の人口10万人以上の市では第1位であり、多くの市民が健康に関心をもっていていることがわかった。なお、静岡県は37.7%で全国では35.4%であった。

さらに、がん検診受診率も高く、特に子宮がん検診は全国32.0%に対し56.5%、乳がん検診は全国26.1%に対し54.9%と高い。このことから男性より女性のほうが健康に関する意識が高いことがうかがえた。

そのようなこともあり、全国10万人以上の288市では受診率で大腸検診第7位、乳がん検診第9位、肺がん検診第11位、子宮がん検診第17位とすばらしい結果であった。しかし、胃がん検診は全国平均より高いものの11.1%と低いのは不思議でならない。

それでは、健康・予防日本一を目指す藤枝市が、どうしてこのように統計的にすばらしい数値になっているのか、健康に関する諸施策を長年にわたり実行してきたことであると思う。

特に注目したことは、保健委員制度であると思った。平成29年度で33年目とそれほど歴史はないが、人数が足利市より多く1,000人体制で保健委員が活動しており、経験者を含めると、2万人の市民が活動していることになることが大きな要因であると感じた。足利市も健康に関する市民の委員を多くふやすことが緊要であると感じた。

このほか、健康に関する無関心層の市民には機会あるごとに頻繁にPRを行っていることは、費用と時間はかかるが見習うべきであると感じた。

○東京都国分寺市

国分寺市プレイステーションについて

【所 見】

プレイステーションとは、子供たちの遊び場という印象は持っていた。現地を訪れてみて、昭和20年代、敗戦後の日本農家という感じを受けた。その時のよさが大きく失われている現在、懐かしく思った。いわゆる「冒険遊び場」である。

国分寺市には1981年から京都の財団法人が運営する冒険遊び場があったそうである。無料で開放されプレイリーダーが常駐する遊び場として市民に親しまれてきたが、財団法人は次第に経営難となり、1998年、冒険遊び場「プレイステーション」の運営から撤退した。それまでプレイステーションを利用してきた人たちや市内の遊び場を豊かにしようと活動してきた団体、PTA、プレイリーダーなどが存続できないかと急遽結集して「冒険遊び場の会」を立ち上げた。そして1999年、行政の担当課のバックアップがあり、市民団体が遊び場を運営する形で存続することができた。翌2000年には「冒険遊び場の会」はNPO法人となり、一方、担当課は国分寺市プレイステーション条例をつくったことで正式な市の施設として新たなスタートを切ることができた。

遊ぶものは一切、新しいものはなく、ある物や古い物を利用してできる限り以前の環境を想定して運営しており、遊ぶ子供たちの顔を初め体は泥んこで見ている頼もしく感じた。例えば、トイレなどは昔の農家の外便所という感じである。

“必要なのは、子どもの迷惑を受け止める環境と大人であってほしい”こんなことをお聞きし、大切なことであると思った。これまでには、一人の市外に住む女性（当日、説明者）がおり、子育てのときにたまたま国分寺の当施設を利用しすばらしいと感じて努力されてきたものと感じた。

あわせて、行政も良く理解をされたことが良い結果に結びついたものと思う。一つだけ心配になったことは、トイレを初めとする衛生面に気をつけなければならないと感じた。